

<背景>

- 1 検査機器のめざましい高性能化
- 2 IT 関連機器の高速化及び低価格化
- 3 国による政策誘導
- 4 DICOM 規格による統一

<調査対象施設>

福島県放射線技師会に所属する、放射線技師が勤務する県内の医療施設を対象と致しました。

<調査方法>

第一段階

電話により現在の医用画像の取り扱い及び将来 PACS への移行を検討しているか、聞き取り調査する

第二段階前調査にて PACS の稼動施設ならびに検討中の施設へ

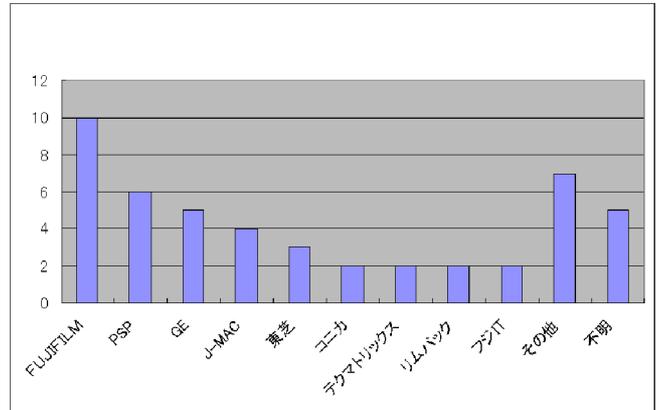
アンケート用紙を配布し詳細なデータを収集する

<調査時期ならび結果>

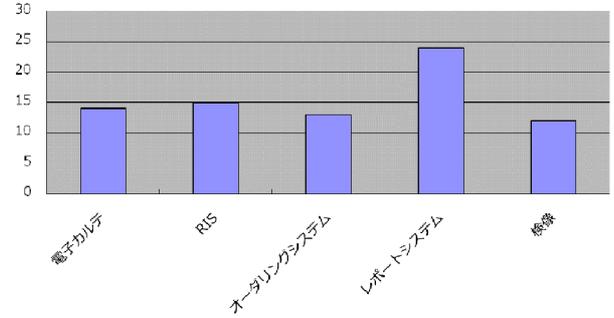
電話アンケート 136 施設平成 21 年 12 月下旬

用紙アンケート 62 施設平成 22 年 5 月下旬

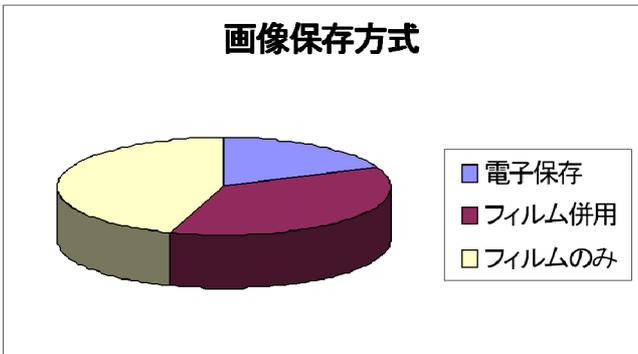
<結果及び分析>



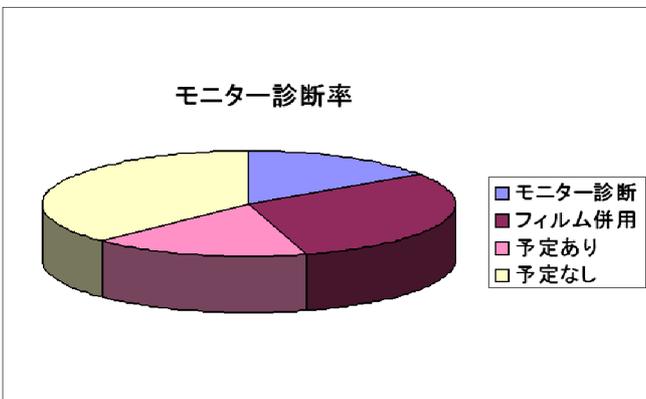
院内の IT 化



画像保存方式



モニター診断率



県内導入 PACS メーカー

モニターについて

	サーバー容量(バイト)	3M	2M	1M	汎用
300床以上の総合病院	A	37.8	14	210	
	B	13	2	15	130
	C	10	18	250	
	D	7.5	10	2	
100~300床の施設	E	8	2	10	70
	F	4		44	
	G	6		6	21
	H	5	1	22	
100床以下の施設	I	4		6	
	J	5	1	5	
	K	1		9	
	L	1.34		1	1

<PACS 稼動施設の不満及びトラブル例> ・多数の同時アクセスによるフリーズ・送配信のストップ・マルチフレームデータが送受信できない

- ・サーバーと読み取り機の整合性が悪い
- ・DICOM タグが合わない
- ・ウイルス感染

- ・ビューワの立ち上がりが遅い
- ・他施設との画像データのやりとりが煩雑

<PACS 稼動施設からのアドバイス>・関係部署全てと綿密な打ち合わせが大事

- ・PACS選定チームを立ち上げ検討する
- ・メーカーの言いなりでは駄目
- ・導入前に他施設を見学する
- ・メーカーとの打ち合わせは全て文章に残す
- ・アフターサービスが重要
- ・将来の更新時の費用も考えておく
- ・関係部署が参加したデモを行う

<印象>県内ではフィルムレスや完全なモニター診断をふくめたPACSとして稼動している施設はまだ少ない。

個々の施設の事情により、病院全体で一度にPACSへの移行は難しいと推測される。

よってフィルムと電子保管、又はモニター診断を上手く併用し運用している施設が多数である。

<今後>将来、放射線機器の更新や、病院の立替が進むにつれ、PACSは確実に普及すると思われる。現在のPACSも完成されたものではなく、今後も日々進化するシステムであろう。

我々放射線技師もその進化に遅れない様、情報収集の努力が不可欠である。